



福田 勝之

一般社団法人東北経済連合会 副会長

新たな交流の期待

2019年1月1日、新潟港は開港から150年という節目を迎えました。それを契機にイギリス人女性旅行家「イザベラ・バード」に注目が集まりました。バードは1870年代を中心に世界中を旅した人で、日本へは明治11年(1878年)に横浜から入り、福島を旅して阿賀野川を経由して開港間もない新潟に入った後、東北・北海道へと旅しました。バードはその旅行記の中で「阿賀野川はライン川より美しい」と称賛しています。

この阿賀野川と日本一の長さを誇る信濃川という二本の大河が肥沃な新潟平野を育み、「米どころ新潟」を形作りました。そこで生産された米は河川の舟運を介して新潟港に集積し、北前船で全国と交易され、新潟港繁栄の礎を築きました。

新潟県産コシヒカリは先人の努力によりブランド米としての地位を確立しましたが、米の国内消費量が漸減する中で、近年は他県産のブランド米との競争が激化して海外に販路を求める動きが広がっています。とりわけ中国は大変魅力のあるマーケットですが、東日本大震災の発生直後から、新潟県を含む10都県において生産された食料品は、中国国内への輸入が禁止されました。7年たった昨年11月に漸く新潟県産の米の輸入が解禁されたことを受け、中国市場の開拓を着実に推進する観点から、米以外の新潟県産の食品全体の早期禁輸解禁に向け、引き続き、関係方面に強く働きかけを行ってまいります。

一方、地方創生の旗印の下、インバウンドの取り込みを含む交流人口の拡大においても、全国各地が競い合っており、新潟県の外国人宿泊者数は、スキー客を中心に年々増加傾向にあり、昨年は約40万人泊となりました。2022冬季北京オリンピックに向けて、中国でのウィンタースポーツへの人気の高まりを期待しておりますとともに、今後はグリーンシーズンの誘客にも力を入れていく必要があると考えております。幸い、新潟県内では夏場を中心に花火大会が盛んで、特に、越後三大花火と称されている「ぎおん柏崎まつり(7/26)」、「長岡まつり(8/2.3)」、「片貝まつり(9/9.10)」の3つの花火大会は、それぞれ打ち上げ場所の特徴から「海の柏崎、川の長岡、山の片貝」と呼ばれて、全国的にも屈指の花火大会と評価されており、国内の方々はもとより、インバウンドの方々にも是非ご覧いただきたいと願っております。

2019年は新潟県にとりまして、交流人口の拡大のチャンス年ととらえています。9月には「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」が開催されますし、10月にはJRのDESTINATIONキャンペーンが「新潟県と山形県庄内エリア」を対象に実施されます。今回のキャンペーンは『日本海美食旅(新潟・庄内ガストロノミー)』と銘打って「食」「酒」等の魅力を中心に、食文化を育んだ自然環境や風土、歴史や伝統といった地域に根差したストーリーを国内外へ発信していきます。

こうしたイベントなどを契機として新潟県において頂いたインバウンドの方々を県内に留めることなく、隣接県などと連携して広域観光に繋げていきたいと考えておりますので、今後とも皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

(一般社団法人新潟県商工会議所連合会 会頭・ふくだ かつゆき)